令和７年度　静岡県社会インフラ長寿命化計画（橋梁及び大型構造物）
改定委員会　第４回　議事録

■開催日時
令和８年３月 13 日（金）15:00～17:00

■会場
静岡県庁別館７階第２会議室

■出席者
別紙のとおり

■議事
【橋梁】
（１）これまでの委員会の振り返り
（２）データ取得・管理・利活用の推進
（３）ガイドライン・中長期管理計画の改定
【大型構造物】
（４）これまでの委員会の振り返り
（５）データ取得・管理・利活用の推進
（６）ガイドライン・中長期管理計画の改定

■質疑応答

（１）これまでの委員会の振り返り【橋梁】

斉藤委員：近接目視を代替する新技術のイメージがあるが、診断Ⅲの部材であっても、内部が見えるような高度な点検ができる新技術であれば採用すべきではないか。フローに当てはまらない特例も許容できるか。

事　務　局：フローに当てはまらない特例の新技術は、採用する方針である。

（２）データ取得・管理・利活用の推進【橋梁】

斉藤委員：交通量や重交通に関するデータ、コンクリート中の塩分濃度だけでなく表面の塩分濃度など、環境作用に関わるデータも今後の分析に役立つ項目として収集を検討してほしい。

事　務　局：今後のシステム開発の参考とさせていただく。

（３）ガイドライン・中長期管理計画の改定【橋梁】

塩澤委員：平準化後のグラフで、架替費が平準化されているが、2048 年頃に集中する架け替えをどのように平準化するのか。

事 務 局：かかる費用を一律に平準化しているが、2048 年頃の架替費が非常に多いため、その分を前倒しし、2035 年頃から状態の悪いものから計画的に架け替える方針である。

塩澤委員：架替は診断に関わらず計画的に行うのか。

事 務 局：予算積み上げのルール上は寿命を迎えたら架け替えることとなっているため、診断区分を加味していないが、実際には劣化状況を加味して悪いものから順に架け替えを行う。

斉藤委員：使えるものは使うという考え方もあるため、予防保全型になることで 120 年よりも長寿命化する可能性もある。理想としては計画的に架け替える方針を残しつつ、現実的には修繕費の削減分を架替に回すなどのやりくりが必要ではないか。更新は非常に重要な事業になると思うので、寿命が来たら架け替えるという方針は残しておいて、可能なタイミングで更新していくという位置づけにしておくのが良い。

小野委員：いずれ架替が必要となるので、いつか架替が必要となったときのために費用を積み立てていくという意味合いだと理解した。更新費が年 9.8 億とあるが、実際に工事をこの年に行うのか、お金だけ積み立てていくのかどちらの方針か。

斉藤委員：平準化はあくまでも計画であり、50 年間でかかる費用を計画している。単年度会計で積み立てしていくことは難しいが、修繕費を早めに投入することで、修繕費がかからない年が出てくるため、その分を架替に回すなどのやりくりが現実的である。架替費用を積んだことがとても重要である。

事 務 局：あくまで慣らした計画だが、予算規模としては年間 46.4 億円の中で架替と補修を繰り返すことになる。

舘石委員長：平準化のグラフは、分かりやすい反面、説明がしにくい部分があるかと思う。誤解を与えないようにしっかりと説明していただければと思う。

山梨委員：中長期管理計画の P1 の目的の部分に「維持管理費用等の増大が課題となっていることから」と記載があるが、「課題となっている」という表現ではなく、「維持管理費の増大が見込まれることから」といった表現に修正してほしい。

事 務 局：表現を修正する。

斉藤委員：耐震対策は別の予算があるのか。

事 務 局：別の計画に基づいて予算計画が行われる。

小野委員：ガイドライン P18 に重要度の指標があるが、維持管理の中でどのように見込まれるのか。

事 務 局：例えば、Ⅱｂ判定が出た場合に、限られた予算の中で優先度の高いものを決める指標として使用する。100 点満点の評価で、全て該当すると 100 点になるように設定し、その点数に基づいて優先順位を決める。

舘石委員長：ガイドラインのＰ24 にも、評価点の記載箇所を記載すると分かりやすいと思う。Ｐ34 の図 7.14 について、右側の図はよく分かるが、左の図は矢印と水の流れが合っていないように見える。

事 務 局：誤解を与える可能性があるため、修正する。

塩澤委員：橋梁ガイドラインＰ20 の「舗装の耐用年数は、設計期間の 20 年に設定する」は、「設計期間の」は不要ではないか。

事 務 局：削除する。

塩澤委員：橋梁の PC 桁は 120 年を目指せるのか。県内の最も古い PC 桁は、昭和 30 年代後半であり、まだ 70 年程度しか経っておらず、実績がない。

斉藤委員：適切に管理すれば 120 年は持つ。特に沿岸部など環境が厳しい場所では、水と塩分対策を徹底すれば 120 年は可能である。ただし、内部の状況は確認しにくいため、注視し懸念があれば詳細調査を行い、問題なければ 120 年を目指すことが可能である。

斉藤委員：新技術のフローは点検マニュアルに反映されるか。

事 務 局：そうである。

（４）これまでの委員会の振り返り【大型構造物】

・意見なし

（５）データ取得・管理・利活用の推進【大型構造物】

斉藤委員：台帳システムは橋梁と同じようなシステムか。

事 務 局：台帳システムは橋梁と大型でそれぞれが独立している。

斉藤委員：橋梁はデータが多いが、分析は大変ではなかったか。

事 務 局：データは多いが、システムのデータを活用して効率的に分析することができた。

舘石委員長：システム改修について、橋梁は 3 年計画、大型構造物は 1 年計画と期間に差があるが、これは仕方ないか。

事 務 局：橋梁は施設数やデータ量が圧倒的に多いため、その辺りも考慮し、このような計画期間としている。

（６）ガイドライン・中長期管理計画の改定【大型構造物】

斉藤委員：平準化後の予算が実績より少ないが、診断Ⅲの対応は完了する見込みか。

事 務 局：その通りである。診断Ⅲは残り横断歩道橋 7 橋である。計画の 3 年目からは予防保全型管理に移行するため、この計画通りに進める。

岡村委員：橋梁は更新費が計上されていたが、大型はあるのか。

事 務 局：更新費は計上している。耐用年数を 120 年としており、50 年の中では 2 施設のシェッドが耐用年数を迎える。

山梨委員：2059 年にシェッド 2 施設の架け替えで費用が多くなっているが、平準化の期間はどうしているか。

事 務 局：2045 年から全額を平準化している。

山梨委員：横断歩道橋の撤去について、コスト縮減イメージにある撤去費 22,000 千円は、架替費を含んでいるか。また、21 年後と 26 年後にも点検費とシーリングが計上されているのはなぜか。

事 務 局：撤去にかかる費用のみである。コスト縮減イメージについては、撤去費用は初年度にかかるが、その後は定期点検費やシーリング費用が 5 年ごとに継続的に縮減されるため、年数が経つにつれてコスト縮減額が増えていくという解釈である。

小野委員：門型標識は撤去が難しいとのことだが、更新（架替）の方が安くなるケースはないか。

事 務 局：門型標識は交通安全上重要であり、撤去は難しいと判断している。更新は 120 年という耐用年数に基づくが、点検結果に基づき補修を続け、使えるものは使っていく考え方である。

舘石委員長：大型構造物ガイドライン 23 ページの「上記の状況を加味し」は不要である。

事 務 局：誤字であり、修正する。

舘石委員長：橋梁と大型構造物のガイドライン・中長期管理計画を比較すると、書きぶりに違いがある。例えば、大型構造物の中長期管理計画には維持管理経費の記載があるが、橋梁にはない。

事 務 局：橋梁は、中長期管理計画にガイドラインを参照する旨を記載しており、ガイドラインの方に維持管理経費の記載がある。

■委員会の総括

小野委員：今回改定した計画が、社会インフラの効率的、経済的、安全性も含めた維持管理につながることを期待する。

斉藤委員：計画通りに進めて、適切なインフラの管理が進められることを期待する。点検結果を正しく診断し、それに基づいて適切な対策を取ることが非常に重要である。診断の精度を上げていただきたい。

舘石委員長：維持管理は 1 年、2 年で結果が出るようなものではないので、今回のように、10 年ごとに見直すことが非常に重要である。また、劣化原因である「水」の対策の強調という、非常に明確な重要なポイントを明るみに出したこともオリジナリティである。II の細分化は、色々議論があるかもしれないが、運用上その方が有益であるという、静岡県独自の意志を感じた。

― 以上 ―